

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第2回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
6/13 (金)	1	5 横山 強	1、市民病院の瑕疵工事について	(1)粗悪な工事による瑕疵に対し、全く進捗がない問題点等広範囲に伺う。 (2)粗悪な工事をした業者に瑕疵に対する改善請求が見られない問題点等を広範囲に伺う。
			2、讃岐造船跡地の工事について	(1)多目的広場の工事に係わる問題等を広範囲に伺う。 (2)職員の管理義務による、今発生している問題等を広範囲に伺う。 (3)業者の施工に対する問題等を広範囲に伺う。 (4)多目的広場の工事に対する産業廃棄物等を広範囲に伺う。 (5)多目的広場の完成に向けての取り組み等を広範囲に伺う。
	2	19 浜口恭行	1、ゴルフ場跡地開発について	本市詫間町では、ゴルフ場跡地の開発について一部で工事が行われており、市民に跡地利用について問われることが多い。ここで予定されている (1)ビジネスホテル建設 (2)大規模太陽光発電設備 (3)工業団地造成など について、本市はどのような形で関わり、共に地域開発・地域振興を進めていく考えなのか、市民の関心が高い中で、市当局の考えを聞く。
			2、地域公共交通支援について	2025年5月31日に、地域交通サービス「mobi」がサービスを終了する。 現行事業形態での継続が困難とのことだが、地域の足が無くなるのかとの声をいただく中で、三豊市地域公共交通計画に基づく「行きたいところへ行けるまち」は、今後どうなるのか。 本市の地域公共交通支援について、みとよ交通システム事業団も設立されてはいるが、「交通・移動」については再度どのように考えているのかを聞く。
			3、バスケット-halfコート [※] の活用について	市役所周辺にある民間企業設置による「バスケット-halfコート」(3x3コート)は、一定期間の実証事業が終了したと聞く。今後はどのようにしていくのか。 コート [※] の管理運営について、予算措置も含めてどうしていくのか、民間企業とタイアップして利用を続けていくのか、を聞く。
	3	9 込山文吉	1、放課後児童クラブの夏休み中の昼食提供について	(1)夏休み中の昼食提供状況を聞く。 (2)全国でも昼食提供のニーズは高い。三豊市でのニーズ調査について聞く。 (3)給食センターの活用可能性について聞く。
			2、三豊市内水道事業について	(1)三豊市簡易水道の上水道への移行計画の進展について聞く。 (2)「水道の耐震化計画等策定指針」を受けた管路耐震化の進捗状況について聞く。 (3)重要拠点へのアクセス路について無電柱化の協議が必要ではないか。
			3、三豊市防災士の育成について	災害時の避難所運営体制をより強固なものとするためには、防災士の育成と配置が重要と考える。 (1)避難所運営における防災士の活用、育成目標について聞く。 (2)今後の資格取得支援の在り方について聞く。
			4、放課後改革の現状と今後の課題	(1)子ども達のニーズ把握の進捗について (2)指導者の確保と育成について聞く。 (3)実証事業の成果と課題について (4)中体連大会出場要件緩和に向けた進捗について (5)放課後改革の今後の展望を聞く。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第2回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
6/13 (金)	4	21 金子辰男	1、マスメディア、SNSソーシャルメディアと市政について	<p>これまでは、新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどマスメディアが世の中をリードしていた。近年では、パソコン、スマートフォン、が普及し、現在では、学校でもタブレット使用の授業がなされており、インターネットと市民生活は切り離せない関係になっている。三豊市についてのメディアの報道はどうか。「三豊市」が新聞やテレビ、ラジオ報道で語られない日はないと思う。だが、報道からのイメージの三豊市と、市民が抱える現実との違い、市民が戸惑っていると感じるが市長の考えを伺いたい。市として、どのメディアに、どのような情報を出しているのか。また、その目的についても伺いたい。</p>
6/16 (月)	5	15 瀧本哲史	1、貧困世帯について	<p>物価高騰が日々顕著になっている。そのような経済的状況の煽りを受けて、影響が大きいと予想される貧困世帯への対策を、子どもを中心とした視点でお聞きする。 (1)指標について (2)市内の実態について (3)現状行っている対策について</p>
			2、給付型奨学金制度について	<p>令和3年度より開始された事業が今年度で5年目を迎えている。 (1)開始から今までの実績についてお聞きする。 (2)これからこの事業をさらに充実したものにするための考えをお聞きする。 また提案も行う。</p>
	6	18 西山彰人	1、各種健診について	<p>5歳児健診について政府が自治体支援強化を行うと言っているが実態について伺う。 また、高齢者の健診の実態についても伺う。</p>
			2、事務事業の棚卸しに伴う経過について	<p>まちづくり推進隊の多くが解散になりそうと聞かすが、推進隊の行っていた事業がどうなるのか、またどうするのかを伺う。 詫間町では、観光につながる事業を多くしていたが棚卸し後どうするのか伺う。</p>

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第2回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
6/16 (月)	7	20 詫間政司	1、統合小学校開校に伴う子どもの放課後の居場所づくりについて	5小学校が1校に統合され、放課後児童クラブも集約される動きが進んでいる。利用児童数の増加や、地域・保護者の多様なニーズを受け止める、新たな体制構築が急務だ。「放課後児童対策パッケージ2025」に即した、本市の取り組みと今後の展望について問う。 (1)放課後児童クラブと放課後子供教室の一体的な運営について (2)人材確保と「放課後コーディネーター」の導入について (3)多様な育ちを支える仕組みとしての「居場所の多機能化」について
			2、豊中町本山地区の治水対策の現況と見通しについて	令和6年第4回定例会における質問に対する答弁で示された、治水対策についてその後の対応と現況、見通しについて問う。 (1)市河川の加奈子川の改良工事の進捗状況と今後の予定 (2)大雨前のため池や水路管理の適正維持管理の働きかけ強化の状況 (3)県河川の竿川・財田川の流下能力向上に向けた取り組み (4)民有地に企業誘致する産業振興施策と、その民有地を活用した治水対策としての貯水池整備と樹木管理による住環境向上を図る安心安全の確保、並びに借り手のなかった冠水農地の優良農地化という「三方よし」政策提案の検討結果
			3、小学校統合に伴う学校施設跡地利用と避難所活用について	学校は、地域の記憶とともに歩んできた大切な場所だ。これを活かして地域の活性化につなげるとともに、近年多発する自然災害に備えた防災機能を確保するという重要な視点から問う。 (1)学校施設跡地について、三豊市としてどのような利活用実績があるのか。 (2)民間活用・地域主導の可能性について (3)防災拠点・避難所としての再整備と条件付き売却について
	8	8 水本真奈美	1、「コドマモ」アプリの周知、活用推進について	子どもを性犯罪の被害者にも加害者にもさせないためのアプリ「コドマモ」が産官学の連携により開発された。子どもを守るアプリ「コドマモ」の周知、活用推進について伺う。
			2、MitoPayプレミアムポイント事業について	MitoPayプレミアムポイント事業は、地方創生臨時交付金を活用して、物価高騰の影響を受けた市民生活の支援を目的に行うものである。確かにプレミアムポイントを付与し、消費拡大につながり、デジタル化を推進するものであるが、真に市民生活の物価高騰生活応援事業となっているのか、伺う。
			3、防災対策について	(1)感震ブレーカー設置補助について (2)自治会未加入世帯の防災訓練、防災対策をどう進めるのか。 (3)災害有事の備蓄在庫管理システム (4)新総合防災情報システム(SOBO-WEB)について伺う。
			4、健康寿命延伸のための肺炎対策について	成人、特に高齢者に対するRSウイルス感染症対策について伺う。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第2回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
			<p>1、国際バカロレア教育導入に関する課題と提案</p>	<p>(1)教員人事と教育方針の整合性について 三豊市が市立小中学校に国際バカロレア(IB)教育を導入するにあたり、教員の人事権が香川県教育委員会にある現状では、市の教育方針と教員配置に齟齬が生じる可能性がある。 この構造的課題に対して、どのように連携・調整を図っていくのか。</p> <p>(2)校区外就学(越境通学)への対応方針 IB教育が当面、詫間小・中学校のみに導入されることにより、他校区の保護者から校区外就学を求める声が上がることが予想される。 教育委員会として、校区外就学を認める方針があるのか、またその際の選考基準や通学支援の在り方についての見解は。</p> <p>(3)教育の公平性と市全体への波及効果 特定校のみでIB教育を実施することが、教育の公平性を損なう懸念がある。 他校へのIB的要素の段階的導入や、教員研修・教育環境整備など、市全体の教育水準向上に向けた取り組みの計画はあるか。</p>
<p>6/17 (火)</p>	<p>9</p>	<p>2 田中達也</p>	<p>2、公共施設マネジメントの再構築と「縮充」戦略の実践について</p>	<p>本市の公共施設は老朽化が進み、維持管理費が高額である現状は早急な見直しを要する課題である。限られた財源の中で、市民の安全とサービス水準を維持するためには、施設の「縮充」(縮小と充実の両立)という考え方を明確に打ち出し、実行に移す必要がある。 これを踏まえ、以下の点について市の見解を伺う。 (1)公共施設の稼働率と利用実態の把握について (2)学校施設を拠点とした「縮充」戦略と超小規模校の統廃合について (3)公共施設の売却方針と処理能力について (4)包括的保守管理委託の導入について (5)次期公共施設等総合管理計画の策定について</p>
			<p>3、三豊市「愛され猫プロジェクト」の持続可能な運営に向けた制度改善について</p>	<p>三豊市が実施している「愛され猫プロジェクト」は、野良猫の繁殖抑制と地域共生を目的とした重要な施策であるが、現在はクラウドファンディングに全額依存しており、令和7年度には申請受付開始から1カ月で予算上限に達するなど、制度の持続可能性に課題がある。市民やボランティアからは、補助額の見直しや制度の拡充を求める声もあり、他自治体の事例を参考に、一般財源の活用や制度設計の改善を検討すべきと考えるが、市の見解は。</p>

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第2回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
6/17 (火)	10	1 湯口 新	1、観光における仁尾町運河の活用について	父母ヶ浜が相変わらず人気がある一方で、仁尾の街中には飲食店や民泊、ゲストハウスなどが増えてきている。観光における消費行動を促すポイントのひとつは「歩けるまちづくり」であり、運河の存在はプラスにもマイナスにもなる。父母ヶ浜の賑わいを町に広めるために運河を活用すべきではないか。
			2、市内各種公園の整備や管理における考え方について	市内各種公園の充実については過去何度も質問してきたが改善がみられない。また整備や管理体制についても多くの課がバラバラに整備・管理している状況が続いており、市民にとっては非常にわかりにくい。過去にも提案したが一括管理してはどうか。市内公園の整備や管理の考え方について問う。
			3、小児科の充実について	みとよ市民病院では2024年4月より、月曜日～金曜日までの午後、毎日小児科の診察を受けられるようになったが、まだ市内に小児科が足りているとは言い難い。またインフルエンザやコロナ等がまん延している時期には小児科自体に行くことも躊躇される。それら子育て世代の不安や不満の改善のためにオンライン診療を導入してはどうか。
			4、緊急時の備えについて	古い町並みが残る地域では救急車が入れない場所もいまだ多く残る。対策を聞く。
	11	12 岩田秀樹	1、高齢者の地域の足確保対策にタクシーチケット券の増額を	移動における課題の解決を図るためとして、みとよ交通システム事業団を昨年設立した。今後の地域交通の課題解決に向けて、地域公共交通の充実をコミュニティバスとスクールバスの再編をはじめとしてどう取り組むのか。
			2、古い水道管配管の見直しと緊急車両の使用できる太さの配管へ	道路整備などにあわせて、老朽化に伴う水道管の見直しを行う取組計画の提案を。 火事があった際、緊急車両である消防車が消火栓に接続しようと思っても、本管が細く、消防車が接続すれば、2台目の消防車は接続はできないような状況ではないのか。 消火栓のある本管の口径を大きくし、安心して緊急対応できるような取り組みをする必要があるのではないのか。
			3、MAiZMの実態はどうなっているのか、今後どう進めていくのか	RPAの活用により業務の削減を期待していたが、その後、広域自治体等人工知能活用推進協議会総会と、東京大学大学院松尾豊教授との意見交換会が財田庁舎のMAiZM(マイズム)で開かれた。今後どう取り組んでいくのか。
			4、病院経営の赤字対策について	全国の公私立病院連盟が昨年6月を対象に「病院運営実態分析調査」(812病院が回答)が3月に発表された。100床当たりの総収入から総費用を差し引くと2, 221万9千円の赤字。赤字病院の割合は、80. 1%。 8割もの病院が赤字の背景と原因は何か。 (1)住民が減っている、患者減少による病院収入の減少 (2)人材流出、病院収入となる診療報酬で職員の処遇改善に向けた取り組みが行われたが反映されていないのではないのか。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第2回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
6/17 (火)	12	17 三木秀樹	<p>1、市長に聞く(その1) 令和8年以降の「市民生活の実情を少しでも改善する」ための、膨れ上がった事業の抜本的見直し(900事業の棚卸し)は進捗しているのか</p>	<p>3月議会の会派代表質問で、10年～20年先を見越した「棚卸し」は、今年は改選期(市長、議員ともに)だから、今年度でなく、一年延期してはどうか。市長答弁は「延期すれば将来に大変な事態が起こる可能性がある」として、単なる延期は「無責任」だ。責任をもつ行政として「事業の棚卸しは貫徹する」と公言した。 市民生活の実情を調査しない、できない山下市政の方式で、市民が「納得する」事業の抜本的見直しは、どの程度進捗しているのか、聞きたい。特に「独居老人」に対する「人権を守る施策」はどのように展開する方向か、聞きたい。 NPOまちづくり推進隊の解散に伴い「地域住民の人権が守れなくなる点」を聞く。</p>
			<p>2、市長に聞く(その2) 市長の幹部職員に対する指導について聞く 特に会計年度職員に対する「敬意と誠意の無い」対応をしている幹部職員の言動について聞く</p>	<p>市長は、現業ユニオン労組との「事前協議に関する協約」に署名、捺印して「敬意と責任を持って」対処すると文面を持って協約を締結している(2023年5月17日)。先般の3ユニオン合同の団体交渉で、①過去に交渉で「合意」した内容を、当該担当課及び病院の幹部が「知らない、知らせていない」人事課含めた執行側の対応が明らかになった。②そのために、「確認書」(交渉等で決定した合意文:市長の代理で人事課長名)が反故にされ、人権問題違反行為を何の負い目も無く行う病院幹部等の言動が明らかになった。市長はどのような指導を行なっているのか。人権意識の無い幹部は時代遅れでないのか。</p>